

「開かれた学校づくり」から発信

このコーナーでは、各園・学校の取組や様子をお知らせし、地域の学校としての情報発信をしています。地域の皆さんには、様々な取組にご理解とご協力をいただいておりますが、今後とも地域ぐるみで子どもの健全育成に関わってくださいますよう、よろしくお願いします。

吾北中学校

6月8日に防災教室をしました

地震災害発生時にどんなことが起こるのか、命を守るためにどんなことが必要かについて、自衛隊高知地方協力本部の杉本本部長をお招きして防災教室を行いました。

災害が発生するとヘリコプターやオートバイを使って被害状況の把握が行われ、都道府県知事から派遣要請を受けて自衛隊の活動が始まります。まずは主として人命救助が行われ、避難の援助、行方不明者の捜索等、応急医療・救護及び防疫、給食・給水支援、入浴支援、物資輸送支援、復旧支援と活動が続き、撤収に至ります。これまでの災害の経験によると電気の復旧に1週間、水道の復旧に20日間、都市ガスの復旧に40日間、仮設住宅生活は2年半くらいかかります。平成16年に発生した新潟中越地震では内陸部の直下型地震で余震が多く、山古志村では村全体・山全体にひびが入るような様子でした。ほぼ全戸が断水、停電して、ガスが止まり、がけ崩れと陥没で道路が寸断され、集落が孤立しました。南海地震が発生すると吾北地区でも同様の被害が発生することが予想されます。

東日本大震災では10万6千人の自衛隊員が派遣され1万9千人の人命が救助されました。高知からの隊員には2名の吾北中学校卒業生も含まれています。一日も早い復旧と復興を心からお祈りいたします。講演の最後には非常食の缶詰を試食する機会もありました。

6月3日には仁淀消防吾北分署の協力で火災避難訓練、救命救急法教室を開催したばかりで、生徒が防災についてしっかりと学習ができました。講演を受けて、吾北中学校生徒会では全校生徒2食分のコメ備蓄を整えました。



生徒の感想 今日、防災教室をやって改めて地震は怖いという気持ちになりました。新潟県の中越地震の被害を見たときに、とても驚きました。山の斜面が崩れて道路が寸断されたり、山に大きなひびが入っていました。もし、南海地震が起きたら吾北の山々もこんなふうになるのかなと思います。南海地震のときにはいかして自分の身は自分で守っていきたいと思います。

開かれた学校づくり懇談会を行いました

6月9日高知追手前高校吾北分校を会場に「開かれた学校づくり懇談会」を開催しました。この会は学校の様子を地域の皆さんに紹介し、助言をいただく機会です。

中学校生徒会からは吾北中学校で毎日の授業のほか、生徒が将来の夢をつかみ、育て、叶えるためにたくさんの外部講師を招いて学習する機会があることを紹介しました。企業の方、警察官、消防士、自衛官、産婦人科医、保健所技師、弁護士、作家、食生活改善推進委員の皆さんのほか、11月20日の文化発表会では南極越冬隊長の講演が予定されています。

生徒数減が続いていますが、生徒の頑張りが認められ4月に吾北中学校が文部科学大臣表彰をいただいたことは明るいニュースになりました。これからも「日本一の学校」を目指して努力を続けていきたいと思ひます。

